

令和2年度 さいたま市立大久保中学校 学校関係者評価書

さいたま市立大久保中学校

学校関係者評価委員長 砂田 幸輝



1 学校関係者評価の実施体制

(1) 構成人数

8人

(2) 実施回数

2回 ※書面会議1回含む

2 学校関係者評価（学校関係者評価委員の意見等）

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響で、学校での教育活動が様々な制約を受け大変なことだったと思うが、学校に喜んで通っているという生徒の割合が例年と比べて大きく落ち込んではおらず安心した。
- ・ 長い臨時休業の期間があったが、教職員の努力により学習の遅れがないことが確認でき安心した。何よりも授業がわかりやすいと回答した生徒の数が3年間で最高値であることがすばらしい。
- ・ 教職員と生徒の評価結果にずれが生じることは、小学校でもあったので、今年度は難しかったが、学校公開や授業参観、行事の公開などで保護者の理解を深められると良いと思う。
- ・ 保護者は参観することができなかったが、可能な行事を工夫して実施できたことはありがたかった。閉鎖的な生活を強いられる状況だったが、乗り越えることができた。
- ・ 評価結果がよくまとまっており、変化や改善点がわかりやすい。参考になる。
- ・ 多くの項目で評価が年々向上しており、子どもたちにとって良い教育活動が行われていることがわかる。ありがたい。
- ・ 学校だよりの巻頭言の内容が素晴らしく、日本から世界情勢までわかるだけでなく自分を振り返る機会ともなっている。また、たくさんの情報発信があり学校生活の様子がよくわかった。
- ・ 生徒が明るくて素晴らしい。アンケート結果にも表れているが、先生方が生徒一人ひとりを理解し親身になって指導している成果だと思う。
- ・ 地域と学校との関わりが深い地域であるので、地域住民は子どもの様子をよく見ている。状況が改善したら地域行事などへの積極的な参加が望まれる。

学校関係者評価を受けた学校の対応

- ・ 生徒一人ひとりの理解に努め、信頼関係に基づいた生徒に寄り添い親身になった指導を組織的に推進し、より一層個性の伸長を図る。
- ・ 大久保学園（大久保中・大久保小・神田）の小・中連携の教育活動の再開と、高校・大学を加えてのキャリア教育を含め、地域の方々の教育力を生かした学校間連携・地域連携の教育活動を確立し推進を図っていく。
- ・ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を継続し、分かりやすい授業実践を通して学力向上させる。
- ・ GIGAスクールがスタートするにあたり、教員の研修を深め、情報用端末を活用した授業や教育活動を積極的に行い、生徒、教職員のICT活用技術を高める。
- ・ 新型コロナウイルスの感染状況により、新しい生活様式での教育活動について評価、改善し、学校行事等を生徒にとってより満足度の高いものにしていく。

さいたま市立大久保中学校長 木寺 恒

